



バッテリー

作 あさのあつこ
教育画劇

友情

永倉豪のやさしさ

おもしろい

紹介文

この本は、岡山県の新田というところを舞台にした物語です。内容は、天才ピッチャー原田巧とガタイのいいキャッチャー永倉豪が運命的な出会いをし、バッテリーとして成長していく物語です。この作品は原田巧を主人公とし、巧に関わる色々な人物とのかっとうや変化を描いています。バッテリーとは、親友とは何なのかを教えてください。この本はⅠ～Ⅵまであり、さらに「ラストイニング」というバッテリーの続編もあります。

倉敷市立南中学校 1年

この本の見どころは、天才ピッチャーとして注目をあびていた巧の家族が、中学入学前に父の仕事の事情で岡山県境の市に引っ越してきたのです。そこで少年野球でキャッチャーをしていた豪と出会い、数々の出来事乗り越えていく物語です。僕も野球をやっている、この本を読んで本を読む事に関心を持ちました。この本は野球をやっている人はもちろん、野球をやっていない人でもおもしろい本です。ぜひ読んでみてください。

倉敷市立多津美中学校 1年

作者のあさのあつこさんは美作市出身です。この『バッテリー』全6巻は物語の1年間を10年かけて書かれています。それだけ作者の思いのこもった作品です。じっくり読んで物語の世界にひたってみてくださいね。

作成委員

～女性作者 その1～



『わたしの、好きな人』
作 八束澄子
講談社



『でーれーガールズ』
著 原田マハ
祥伝社



『お菓子の本の旅』
著 小手鞠るい
講談社

『わたしの、好きな人』中学生のさやかが小さい頃から思い続けている人は、家族同様に暮らしている年上の人。小さな子どもとしてしか見てもらえない、さやかのもどかしい気持ちが切ないです。『でーれーガールズ』はタイトル通り、岡山のある女子高の卒業生たちのお話です。岡山の名所も出てきて、ご当地ネタでも楽しめます。『お菓子の本の旅』表紙の絵がとてもかわいらしい。遥の死んだお母さんの手作りの本をめぐる、心が温かくなる、ちょっと不思議なお話です。作者はすべて岡山県出身です。



博士の愛した数式

著 小川洋子
新潮社

記憶

数学の奥深さ

切なくて温かい

紹介文

交通事故の後遺症で新しい記憶は80分しかもたない数学博士。その家に家政婦として勤めることになった私。私には10歳の一人息子がいました。博士はその息子をルートと呼び、こよなく愛情を注ぎます。博士と私とルートとの心温まる交流。博士の首には、私たちがプレゼントした江夏のプレミアム野球カードがいつもぶら下がっていました。素数、完全数、数式の美しさ。数学の奥深さを日常の中に見つける喜びを発見します。読後のさわやかさを体験して欲しい一冊。作者の小川洋子さんは岡山市出身。

作成委員

～女性作者 その2～



『精姫様一条』
著 杉本章子
講談社



『梅桃(ユスラウメ)が実るとき』
著 吉行あぐり
文園社



『おさん狐 詩集』
著 なんば・みちこ
土曜美術社出版販売

『精姫様一条』は江戸情緒たっぷりのしっとりとしたお話です。将軍家のお姫さまのお興入れ先をめぐる殺人事件が起こります。主人公のお吉は公儀（幕府）隠密として事件を解明しようとします。江戸の町人、お役人など様々な立場の人たちが生き生きと描かれています。作者の杉本章子さんはノートルダム清心女子大の卒業生です。『梅桃が実るとき』の作者吉行あぐりさんは岡山市出身です。美容師として90歳すぎまで働いていました。長男淳之介、次女理恵は芥川賞作家、長女和子は女優。『おさん狐』は、人間と友だちになったり、人間に恋をしたり、動物と人がもっと近い存在だったころの詩です。方言がとても温かいです。1編ずつゆっくり味わってみてください。著者のなんば・みちこさんは総社市の方です。



きみの友だち

著 重松清
新潮社

友だちの本当の意味
思春期の苦悩
友達論

紹介文

この本は、友だちのせいで事故にあい、友だち付き合いをやめた恵美ちゃんと、体の弱い由香ちゃん、そして2人のクラスメートや家族たちの物語です。みんな友だちのことでなやんで、傷ついて、それぞれ成長していきます。私は、言い方がきつくてそっけないけど、どこか優しい恵美ちゃんの一言一言に、たくさんのことを学べました。本当の「友だち」の意味を知ることができる、とても感動する物語です。

倉敷市立真備中学校1年

あなたにとって「友だち」はどういう存在ですか？でも、「友だち」としてあなたはどのような存在なのか、実はそれがとても大切なのかもしれません。作者の重松清さんは津山市出身です。

作成委員

～男性作者 その1～



『官兵衛、駆ける。』
著 吉橋通夫
講談社



『横溝正史探偵小説コレクション5
消すな蠟燭』
著 横溝正史
出版芸術社



『冥途 内田百閒集成3』
著 内田百閒
筑摩書房

『官兵衛、駆ける。』官兵衛とは、のちに豊臣秀吉に仕えた軍師黒田官兵衛のことです。その原点となる少年時代から青年時代までが書かれています。作者の吉橋通夫さんは岡山市出身です。『横溝正史探偵小説コレクション5』作者の横溝正史は戦争中、一家で倉敷市に疎開しました。この本はすべて岡山が舞台の本格探偵小説を集めています。探偵気分になって犯人をあててみませんか？ 『冥途』作者の内田百閒は岡山市出身で、夏目漱石門下となりました。



翻訳家じゃなくてカレー屋になるはずだった

著 金原瑞人
ポプラ社

英語と日本語のちがいが

なぜ翻訳家に？

エッセイ集

紹介文

翻訳家金原瑞人さんのエッセイ集。金原さんは岡山県出身で、直木賞作家金原ひとみさんの実父です。英米のヤングアダルト文学を主に翻訳している彼の初めての翻訳は「ハーレクインロマンス」。そして高校生の頃は医学部を目指していたのに、なぜか文学部英文学科に入学。なのに、それほど英語は出来なかった、というおもしろい(?) 経歴の持ち主。

英語と日本語の表現の違いに四苦八苦しなながら、より原作の雰囲気をも日本の読者たちに伝えようとされています。

翻訳家という仕事に興味のある人、必読! ?

作成委員

～男性作者 その2～



『謎解きはディナーのあとで』
著 東川篤哉
小学館



『さがしものが見つかりません!』
著 秋山浩司
ポプラ社



『ハルカの陶1』(コミック)
作画 西崎泰正
原作 ディスク・ふらい
芳文社

『謎解きはディナーのあとで』アンケートで堂々の1位! ドラマや映画にもなりました。毒舌執事の謎解きがおもしろいという感想が多くありました。作者の東川篤哉さんは岡山大学の卒業生です。『さがしものが見つかりません!』作者の秋山浩司さんは一時期岡山市に住んでいました。大阪大学大学院の卒業生。阪大のちょっと変わったキャンパスライフが味わえる小説です。『ハルカの陶1』作者の西崎泰正さんとディスク・ふらいさんは、共に岡山市の方です。都会で満たされない毎日を送っていた女性が、備前焼に出会い陶芸家を目指すコミック。



置かれた場所で咲きなさい

著 渡辺和子
幻冬舎

人間関係

愛

自分の歩み方

紹介文

この本の題名『置かれた場所で咲きなさい』とは、どんな土地や立ち場に置かれても、不平不満を持つのではなく、笑顔で生き、周囲の人々も幸せにするという意味。作者の渡辺和子さんは、全く未知の土地岡山に派遣され、そこでの生活をいろいろと語っています。また、渡辺さんのお気に入りの数多くの詩人の詩を紹介してくれています。本を読んでいると、その世界に引きずり込まれてしまうほどです。

倉敷市立南中学校 2年

この本は、今の自分の歩みを振り返ったり、これからしたいと思っていることを知ったりする時に役に立つ本です。僕の好きなフレーズは「何もできなくていい。ただ笑顔でいよう。」という所です。この本は一つ一つの問題提起に答えがみついているので読みやすいです。

県立岡山大安寺中等教育学校 1年

作者の渡辺和子さんはノートルダム清心学園理事長です。この本は、やさしい言葉で私たちに語りかけてくれています。読み終えたとき、あなたの心になにが残りますか？

作成委員

～輝くひとびと～



『ぼくは「つばめ」のデザイナー
九州新幹線 800系誕生物語』
著 水戸岡鋭治
講談社



『音楽さえあれば
ピアノとチェロで世界を巡る』
著 岩崎淑、岩崎洸
吉備人出版



『それでも前を向くために
be SOUL 2』
著 高橋大輔
祥伝社

様々な分野で活躍する人の著書を紹介しています。『ぼくは「つばめ」のデザイナー』の水戸岡鋭治さんは岡山市出身のデザイナーで、鉄道車両や岡山の路面電車などのデザインをされています。『音楽さえあれば』の岩崎淑さんは倉敷市出身のピアニスト、弟の洸さんはチェリストとして、国際コンクールでの入賞経験もあります。

『be SOUL 2』高橋大輔さんは、倉敷市出身のフィギュアスケートの選手です。現役引退を決意するまでの気持ちの変化を率直に語ってくれています。



十五少年漂流記 なかい夏休み 集英社みらい文庫

作 ジュール・ベルヌ

訳 末松水海子

集英社

協力

冒険

友情

紹介文

「どんな困難にぶつかっても自分かってなことをしないで力をあわせ、熱心さと勇気をもってあたれば、きりぬけられないことはない」この言葉はこの本の最後に書かれていて、一番好きな言葉です。十五人の少年が夏休みにスラウギ号という帆船に乗り、ニュージーランドの海岸をひとまわりするという航海旅行が、ある一人の少年によって船が流され無人島に漂着してしまいます。島で様々な経験をし、共同生活とは何かを考えさせられる本です。

岡山市立西大寺中学校 3年

十五人の少年にまろうけるいくつもの大変な出来事。それにたえながら、無事、港に帰ってくるまでのベルヌのSFの話。ハラハラ、ドキドキする話が好きな人も、SFなどや冒険の物語が好きな人も楽しめる冒険物語です。

県立岡山大安寺中等教育学校 1年

なぜこの本が「岡山じゃけえ」に入っているの？と不思議に思うかもしれません。実は、1896年に『十五少年』の題名で出版されたときの訳者、森田思軒は笠岡市の出身です。この本はいろいろな人の訳で出版されています。読み比べてもいいかも。

作成委員

～もっと深く……～



『岡山県謎解き散歩』
編著 柴田一
KADOKAWA



『立石おじさんのおかやま昔話2』
著 立石憲利
吉備人出版



『ハンセン病を生きて
きみたちに伝えたいこと』
著 伊波敏男
岩波書店

『岡山県謎解き散歩』吉備団子のふるさとはどこ？ご当地グルメのひみつや岡山城の亡霊の話など、岡山に関する謎と魅力がつまった一冊。『立石おじさんのおかやま昔話2』は「昔」ではじまり「昔こっぴり」で終わる昔話。小さな頃、寝物語に聞いたお話もあるかもしれませんね。『ハンセン病を生きて』岡山にハンセン病の療養所があるのを知っていますか？ いわれぬ差別や偏見にさらされてきた患者やその家族たちの歴史を知ること、今、自分に何ができるのか見えてくるかもしれません。